3-1. 島田櫛島地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

櫛島地区は島田地区の西部、益城町の西端に位置し、西側及び南側は嘉島町に隣接しています。

地区の北部には東西方向に木山川が流れ、周辺には農地が広がっており、そこから５ｍほど高い、小さな丘陵地に立地しています。

地区の中央には九州自動車道が通り、地区を分断していますが、九州中央自動車道と接続する嘉島ジャンクションが位置するなど、九州全土の交通の要でもある土地です。

また、櫛島の地名の由来は、かつて周囲が海だった頃、山から見た形が櫛に似た島であったことによるといわれています（肥後国誌）。

図　島田・櫛島地区

■人口等

平成 29 年８月末現在の櫛島地区の人口は 194 人、世帯数は 74 世帯（戸数 62 戸）となっています。このうち櫛島仮設団地に入居しているのは 26 世帯、64 人となっています。

高齢化率は全体で 40.7%、そのうち仮設団地に限ると 53.1%となっています。

益城町の平成 27 年の高齢化率は 26.7%で全国平均 26.6%とほぼ同じですが、それに比べて櫛島地区の高齢化率は大幅に高い状況になっています。

表　櫛島地区の人口（平成 29 年８月末現在）

	男性	女性	計	うち仮設団地男性	うち仮設団地女性	計
0-9 歳	5	3	8	0	0	0
10-19 歳	5	11	16	1	3	4
20-29 歳	9	8	17	1	1	2
30-39 歳	5	5	10	1	1	2
40-49 歳	14	11	25	5	4	9
50-59 歳	13	11	24	4	3	7
60-69 歳	17	18	35	8	7	15
70-79 歳	12	15	27	3	6	9
80-89 歳	14	12	26	7	5	12
90-99 歳	1	5	6	1	3	4
100-109 歳	0	0	0	0	0	0
合計	95	99	194	31	33	64
65 歳以上	36	43	79	15	19	34
高齢化率	37.9%	43.4%	40.7%	48.4%	57.6%	53.1%

資料：地区提供

（２）被害状況

櫛島地区の熊本地震による住家被害状況を見ると、住家の全半壊率が 1/4 を上回り、一部損壊をあわせると６割以上の住家が何らかの被害をうけました（熊本県立大学柴田研究室による外観目視による調査結果のため、罹災証明の発行の割合とは異なります)。

その後､熊本地震から半年後の平成 28 年 11 月､1 年後の平成 29 年 5 月の結果と比較すると、全壊、半壊の住家だけでなく、一部損壊の住家の解体が進み、平成 29 年 5 月現在で約４割が更地となっています。また、３割をこえる住家で修理、再建が終わっています。

（３）地区の課題

・活断層の上に位置する集落
・益城町の平均を上回る高齢化率
・地区内道路のほとんどが狭あい道路

２．地区の基本方針

櫛島地区の将来像は、

・櫛島地区の住民が、櫛島の将来の姿を共通してイメージする

・櫛島外の人に、櫛島っていいところとイメージしてもらう

ために、意見交換会の場で検討し、決めたものです。

この言葉には、高齢者も若者も子供も、新しい人も古い人も、時にはけんかをしても、櫛島のみんなで一緒にやろう、という意味が込められています。

【まちづくりの目標・キャッチフレーズ】

“櫛島　みんなで手をつなごう”

３．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

避難路については、地区の中心を東西に通る櫛島東無田線を、避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように、拡幅整備します。

また、防火水槽としての機能も持つ地区内のプールへつながる道路も拡幅整備します。

＜避難地＞

避難地については、熊野坐神社の境内には公民館があり、集落の中心に位置することから、神社の境内を災害時の一時避難場所として整備します。

表　避難路・避難地の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
櫛島東無田線	地区公共施設（避難路）	拡幅	400.0	6.0	2400.0	72,630
町有道路	地区公共施設（避難路）	拡幅	110.0	4.0	440.0	23,000
一時避難場所	地区公共施設（避難地）	新設			1672.0	62,520

櫛島地区【A：6m（櫛島東無田線）、B:4m】

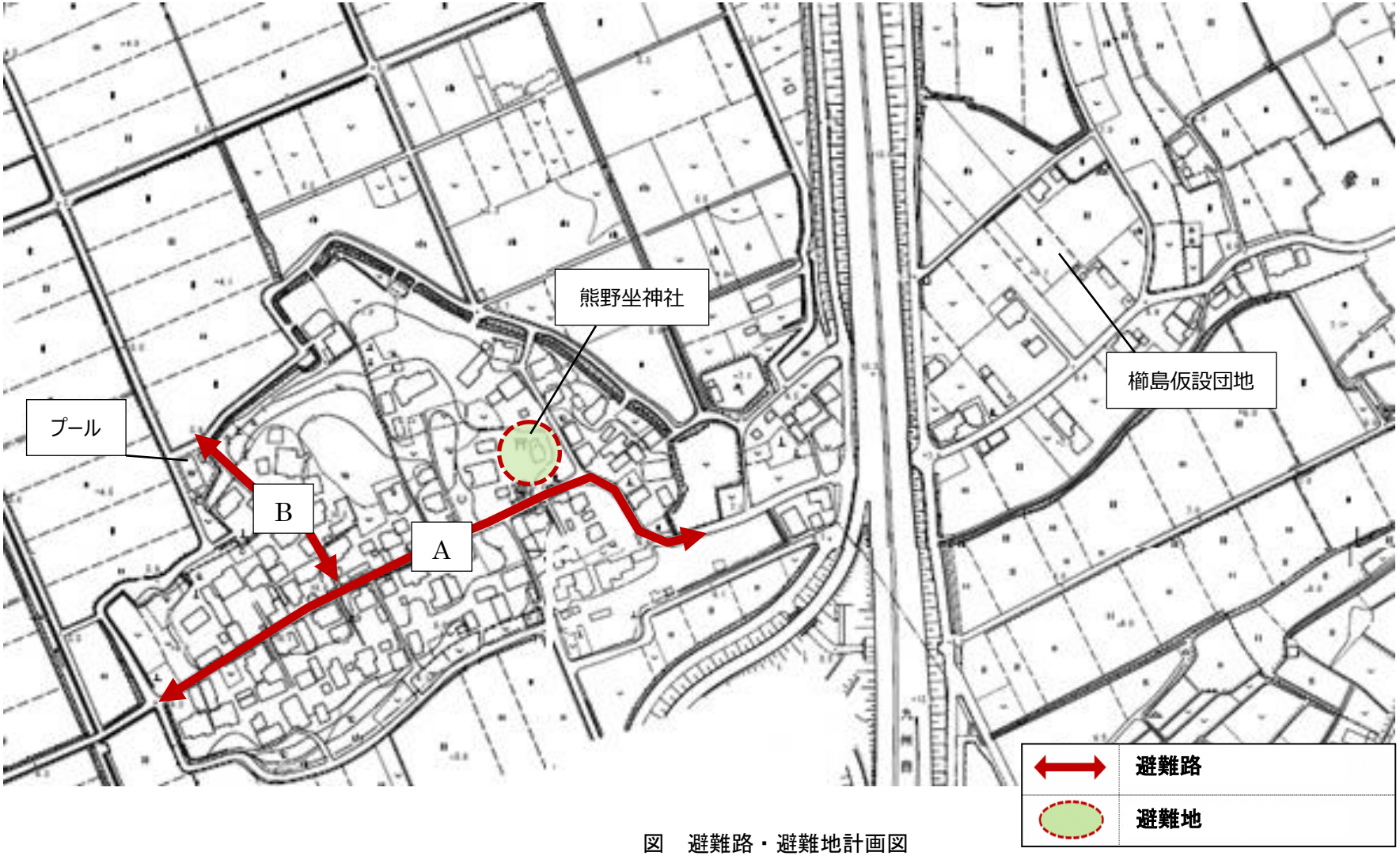

図　避難路・避難地計画図